

目次

01 はじめに P.4

02 東京iCDCの概要 P.6

- ・東京iCDC専門家ボードメンバー一覧
- ・東京iCDCの体制図

03 東京iCDC立ち上げ P.9

- ・東京iCDC立ち上げの経緯
- ・専門家ボードとタスクフォースの設置

04 東京iCDCの主な取組（一覧） P.15

- ・令和2年度から5年度までの主な取組
- ・東京iCDCによる東京都モニタリング会議報告事項(一覧)

05 【参考】東京都の対策 P.23

- ・第1波から第8波までの取組
- ・世界各国の感染状況

06 各チーム、タスクフォースの主な取組 . . . P.29

- ・東京iCDCが行った新型コロナに係る調査・分析、情報発信等

07 感染対策支援チームの設置と取組 P.103

- ・クラスターが発生した高齢者施設等の感染対策を支援する「感染対策支援チーム」の取組

08 東京iCDCによる海外発信 P.107

- ・東京iCDCの取組の海外への発信及びネットワーク構築に向けた取組

09 まとめ P.111

- ・東京iCDCの新型コロナへの対応の振り返りと今後の取組について

10 リンク集、索引 P.117

第2波対策検討ワーキングにおける検討（東京iCDC立ち上げまで）

● 東京版CDC構想について（「第2波対策検討ワーキング（※1）」における検討）

都は、新型コロナウイルス感染症の第1波の経験、教訓等を踏まえ、万全の第2波対策を行うとともに、都の感染症対策の拡充を図るため、令和2年（2020年）6月15日に、**第2波対策検討ワーキング**を開催。5回にわたり、専門家を交えて、組織体制・検査体制・医療提供体制について検討した。

これらの検討を踏まえ、都は「**東京版CDC構想（素案）**」を策定。構想実現までの**ステップ（※2）**を示した。

（※1） 第2波対策検討ワーキング

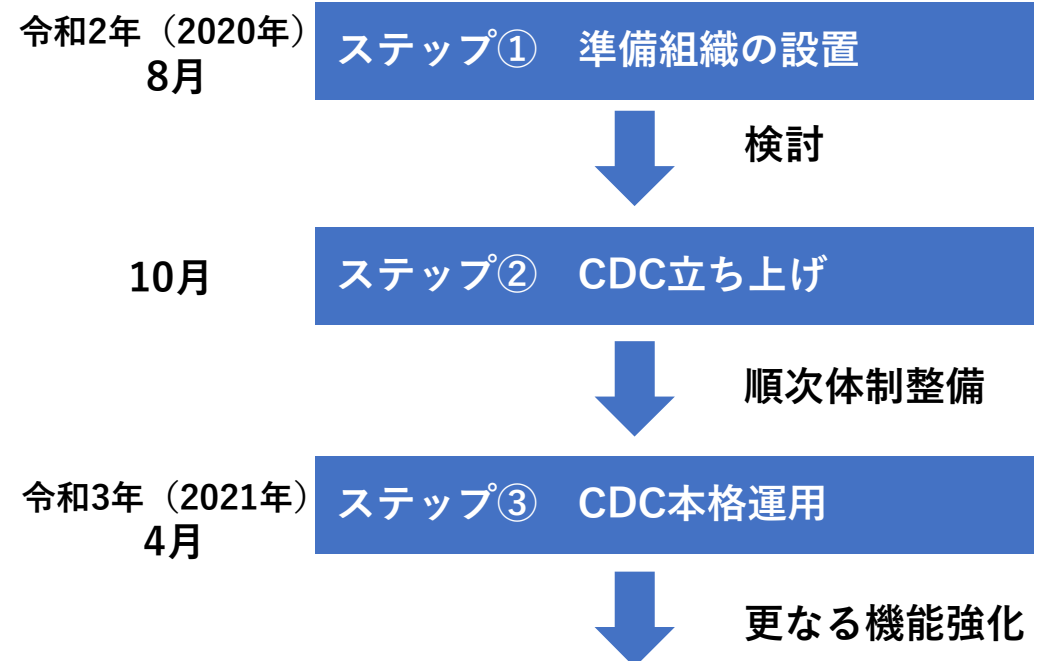
【検討体制】※令和2年（2020年）7月31日時点

専門家	東京都医師会 副会長 猪口正孝氏 国立感染症研究所 感染症疫学センター主任研究官 神谷元氏 国立国際医療研究センターAMR臨床リソースセンター情報・教育支援室長 具芳明氏 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部長 齋藤智也氏 東京都立駒込病院 臨床検査科 医長 関谷紀貴氏
関係行政機関	新宿区保健所長
東京都	副知事、福祉保健局長、健康危機管理担当局長、技監、福祉保健局関連部長

【主な検討事項】

第1回	検査・医療体制の構築について	第4回	組織対応力の強化、検査・医療提供体制の拡充に係る取組の方向性について
第2回	モニタリング指標について	第5回	東京版CDC構想について 検査体制・医療提供体制の拡充について
第3回	検査・医療体制の構築について		

（※2） 東京版CDC構想実現に向けたステップ



準備検討委員会における議論（東京iCDC立ち上げまで）

● 東京版CDC準備検討委員会について

都は、新型コロナウイルス感染症をはじめとする**様々な感染症への対策強化**に向け、感染症に関する政策立案、危機管理、調査・分析・評価、情報収集・発信などの機能を**一体的に担う拠点の形成**に向けた検討を行うため、令和2年（2020年）8月25日「**東京版CDC準備検討委員会（※）**」を設置。10月に迫った東京版CDCの立ち上げと、早期の本格運用に向けて、平時・有事における機能や、組織の在り方等について具体的な議論が進められた。

なお、東京版CDCの設置に先立ち、喫緊の課題であった新型コロナとインフルエンザの同時流行に備えた体制を検討するタスクフォースを設置している。

（※）東京版CDC準備検討委員会

【検討体制】 ※令和2年（2020年）9月15日時点

専門家・有識者	東北医科薬科大学医学部感染症学教室特任教授 賀来満夫氏（委員長） 国立感染症研究所 脇田隆字氏 東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授 舘田一博氏 国立国際医療研究センター国際感染症センター長 大曲貴夫氏（副委員長） 東京都立駒込病院感染症科部長 今村顕史氏 国立感染症研究所 感染症疫学センター主任研究官 神谷元氏 放送大学教養学部教授 奈良由美子氏
関連団体	東京都医師会副会長 角田徹氏 東京都医師会副会長 猪口正孝氏
関係行政機関	大田区保健所感染症対策課長、多摩立川保健所保健対策課長
東京都	副知事、福祉保健局長、健康危機管理担当局長、技監、福祉保健局関連部長

【主な検討事項】

第1回	<ul style="list-style-type: none">東京版CDCの全体像等について共有論点整理今後の検討スケジュールの確認
第2回	<ul style="list-style-type: none">第1回における主な意見東京版CDCの方向性専門家ボードとタスクフォースについて立ち上げ時の取組

東京iCDCの立ち上げ及び機能

● 東京iCDCの立ち上げについて【令和2年（2020年）10月】

都は、東京版CDC準備検討委員会における検討を踏まえ、令和2年（2020年）9月に「東京iCDC構想」を策定。これに基づき、10月に「東京iCDC」を立ち上げた。

東京iCDC構想（概要）

【東京iCDCの考え方】

- 効果的な感染症対策を一体的に担う常設の司令塔として、知事に対してエビデンスに基づいた助言を行う
- 平時から公衆衛生人材の育成や国内外の自治体・研究機関等とのネットワーク構築によりインテリジェンス機能を強化
- 危機発生時には、平時のインテリジェンス機能を活かし、迅速かつ効果的に対応を図る

【東京iCDCが果たす機能】

平時

迅速な移行
体制強化

有事

- **政策立案機能**
危機発生時に備えた体制整備等
- **調査・分析機能**
国、大学・研究機関等との共同研究、ネットワーク構築等
- **情報収集・発信機能**
啓発、データのアーカイブ化等
- **人材育成機能**
育成プログラムの充実等
- **危機管理機能**
政策立案、クラスター対策、院内・施設内感染の拡大防止等
- **調査・分析機能**
都、外部研究者が一体となった分析チームの編成
- **情報収集・発信機能**
都民への効果的な広報、リスクコミュニケーション

● 東京iCDCが果たしている機能

- ・ 東京iCDCは、感染症に関わる様々な領域において、調査・分析、情報収集・発信などを行う専門家のネットワーク
- ・ 感染状況や医療提供体制の状況を踏まえ、専門家の視点から、ステージに応じた助言を実施
- ・ 政策の方向性や個別施策について助言を行い、都の感染症対策全般の「司令塔」としての役割を担っている

東京iCDCの核となる「専門家ボード」の設置

iCDC専門家ボード

東京iCDCによるエビデンスに基づく助言や、国内外の自治体・研究機関等とのネットワーク構築の中心的な役割を担っているのがiCDC専門家ボード。このボードには、専門分野ごとのチームを設置し、**50名を超える専門家に参画**いただいている。※令和5年（2023年）6月時点で9チーム。

チームは、令和2年（2020年）10月の東京iCDC立ち上げ時に「疫学・公衆衛生チーム」「感染症診療チーム」「検査・診断チーム」「リスクコミュニケーションチーム」の4チームを設置。同年12月に「感染制御チーム」、令和3年（2021年）1月に「微生物解析チーム」「研究開発チーム」を、同年3月に「人材育成チーム」を設置。

令和3年（2021年）4月に、8チーム体制で東京iCDCの運用を本格的に開始。その後、令和4年（2022年）10月に「情報マネジメントチーム」を設置し、現在の9チーム体制となっている。なお、東京iCDC専門家ボードが、調査・研究する事項に関して、客観的な立場から知見を活かした助言をいただく6名の外部アドバイザーを選任している。

iCDC専門家ボード(各チームのミッション)

疫学・公衆衛生チーム

疫学調査に基づく感染リスクの分析評価を行い、感染状況や将来予測などを踏まえた助言を実施

感染症診療チーム

症例の解析と効果的な感染症診療の検討
新たな治療法の評価、後遺症対応等も検討を実施

検査・診断チーム

検査・診断手法の評価分析と、新たな検査・診断手法の確立などの充実に向けた検討を実施

リスクコミュニケーションチーム

広報・広聴など双方向性の情報共有に基づく感染症対策の検討とともに、幅広いリスクコミュニケーション活動について助言を実施

感染制御チーム

最新の科学的な知見から、場面に応じた感染制御に係る効果的な対策の検討やマニュアル策定等の検討を実施

微生物解析チーム

感染症の伝播性・病原性・遺伝子変化などについての評価・解析、ワクチンや治療薬などについての情報収集を実施

研究開発チーム

基礎的・臨床的研究の進展・開発など、幅広い分野・領域での情報収集、都における知見の応用・実践等の検討を実施

人材育成チーム

都内における感染症対策を担う人材の研修・育成プログラムの充実を図るための検討を実施

情報マネジメントチーム

感染症に関する情報の収集、管理、活用といったデータマネジメントの在り方について検討を実施

特定の事項に関して検討を行う「タスクフォース」の設置状況

● タスクフォース

東京iCDCには、感染症に関する特定の事項に関して検討を行う「タスクフォース」を設置している。なお、東京iCDCでは、立ち上げ当初から新型コロナウイルスの感染拡大による有事の状況であり、その対応に注力する必要があったため、より機動的に課題に対応できるタスクフォースにおける議論が活発となっていた。

令和5年（2023年）6月時点まで、12のタスクフォースを設置し、iCDC専門家ボードの各分野のメンバーや、関係機関の専門家を交えて検討を行ってきた。

タスクフォース名	iCDC専門家ボードからの参画状況									参画の関係機関等
	疫学・公衆衛生	感染症診療	検査・診断	リスクミ	感染制御	微生物解析	研究開発	人材育成	情報マネジメント	
インフルエンザとの同時流行		●								東京都医師会 国立感染症研究所
医療提供体制		●							●	国立がん研究センター中央病院 日本体育大学 帝京大学 杏林大学 都立病院
安心な街づくり	●			●						日本赤十字社東京都支部 東京消防庁 東京医科大学 東京都医師会 保健所
ゲノム解析		●	●			●		●	●	順天堂大学 東京曳舟病院 東京大学医科学研究所 国立がん研究センター中央病院 地方衛生研究所 東京大学空間情報科学センター
感染状況の予測と対策	●				●		●			北里大学 聖マリアンナ医科大学 ヒラハタクリニック 国立国際医療研究センター 早稲田大学理工学術院
ワクチン情報										工学院大学 産業技術総合研究所
感染予測シミュレーション	●									神戸大学/理化学研究所 大阪大学 労働安全衛生総合研究所
後遺症		●		●						産業医科大学災害産業保健センター等
換気・室内感染対策					●		●			
先端技術による感染リスク評価					●		●			
ワンヘルス・アプローチ推進		●			●	●		●	●	
梅毒対策		●	●	●		●				